



令和8年3月13日

八王子市立恩方第一小学校 校長 佐藤 勇輝

令和7年度 八王子市立恩方第一小学校 学校経営報告

恩方を心のふるさとに

「児童も教師も保護者も地域も 誰もが成長を実感できる学校づくり」

今年度の経営計画より

I 教育目標 と 目指す学校

<教育目標>

子どもたちが意欲をもって学び、豊かな社会性を身に付け、心身ともに健やかに成長できるよう、次の児童像を掲げて学校教育を充実させる。

○よく考える子（知）……確かな学力を身に付け、深く考えて行動する子

◎思いやりのある子（徳）…豊かな心をもち、互いに認め合い、助け合う子

○じょうぶな子（体）……何事にもくじけない気力と体力を身に付けた健やかな子

○よく励む子……自分を伸ばすための努力を惜しまず、ねばり強く積み重ねていける子

<目指す学校>

子供たちが育つ学校 期待を込めて、根気よく、楽しく

- （1）成長への期待を込めて学べる学校。成長を実現するために根気よく、楽しく学べる学校
- （2）児童を取り巻くすべての大人（教職員・保護者・地域）が、ともに児童の成長を支える学校
- （3）教職員が教育活動のさらなる充実のために、指導力を高め、組織的に取り組む学校

II 学校経営の基本方針

ア 「よく考える子」を育成するために、学びの質を高め、確かな学力を育む教育を推進します。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動とそれを補完する取組の充実を図ります。
- ② 学びのスタンダードにより学習規律を徹底し、きめ細かな教育活動の充実を図ります。
- ③ 学習した知識や技能の活用を図る学習活動及び探究活動を充実させます。
- ④ 体験活動を充実し、様々な人とのかかわりを通して、主体的に学習に取り組む態度を養います。
また、ふるさと恩方の地域資源を活用し、郷土学習を通して恩方への愛着等を深めていきます。
- ⑤ 子供一人一人の学習状況に応じた指導の工夫、学習環境の工夫、指導評価の改善を行います。
- ⑥ 推薦図書を更新を通して読書活動の充実を行います。
- ⑦ 1人1台のタブレットの効果的な活用を図ります

イ 「思いやりのある子」を育成するために、豊かな人間性や規範意識・社会性を育む教育を推進します。

- ① 道徳教育をはじめ全教育活動を通して、自己の生き方について考えを深める学習を行います。

- ② 特別活動をはじめ、あらゆる教育活動を通じて、自分や友達のよさや、自己肯定感の高まりを感じられる活動を推進します。
- ③ いじめをゆるさない学校にします。
- ④ 特別な支援を要する児童について、組織的に対応できる指導体制の充実を図ります。
- ⑤ 地域に関わる教育活動を充実させ、地域を愛し、地域社会の一員であるという自覚を高めます。

ウ 「じょうぶな子」を育成するために、安全な生活、健康の保持増進・体力を育む教育を推進します。

- ① 体育の学習や体を動かす活動を通して、スポーツへの興味・関心を高め、望ましい運動習慣を育てます。
- ② 保健教育、食育の意図的・計画的な推進を図り、望ましい生活習慣、食習慣を育てます。
- ③ 危険予測・危険回避の能力を身に付けさせる安全教育を充実させます。

エ 安定した学校運営協議会の運営のもと、家庭・地域・学校間の連携を深め、教育内容を拡充させます。

- ① 学校運営協議会の安定した運営を継続させます。
- ② 小中一貫教育、保育園や学童との連携を活性化させます。
- ③ 地域に人材や教材を求め、地域の教育力を活用した教育を推進します。
- ④ 学校の基本姿勢・教育活動についての情報発信の充実を図ります。
- ⑤ 学校評価及び各種アンケートを学校改善に積極的に生かします。

オ 組織力の高い学校を創ります。

- ① 指導力向上のための教員の研修機会を増やします。
- ② 校務支援システムを利用した情報共有を推進します。
- ③ 校務分掌を見直し、学校運営の改善を図ります。
- ④ 教職員が信頼し合い、補完し合える環境を整えます。

令和7年度の取組目標と方策に対する取り組み状況についての報告

目標	具体的方策	評価項目（判断方法）
児童 確かな学力の育成	①個に応じた指導による、九九や割り算、繰り上がりや繰り下がり等、計算の基礎定着 ②基礎学力向上のための、八王子市学力定着度調査やはちおうじっ子ミニマムの実施 ③郷土学習（地域教材・地域活用単元の開発）の推進 ④推薦図書を更新と読書活動の充実	①学期末や年度末等の適宜の定着率チェック（達成率）と取り組みへの振り返り ②児童一人ひとりの課題に応じた指導の実施と習得状況の把握。（それぞれ年2回の結果） ③郷土学習を継続実施できるようコーディネーターとの連携（実施状況） ④全学年で恩一小的の選書を活用した読書活動の継続(通年)
	経過・達成状況	
	○算数少人数担当教員と担任との連携、アシスタントティーチャーの活用により、九九や割り算の適宜の定着率チェックの体制が整い、個別のアプローチも取れるようになった。今後も継続させていく。 ○はちおうじっ子ミニマムの第2回の正答数16問未満の割合は50%となり、30%向上した。繰り返しの取組が結果の向上につながった。八王子市学力定着度調査では、C・D層の割合が全国に比べかなり多い。しかしながら、実施学年の4～6年生すべてで、第2回の結果が向上している。また、学年推移でも、すべての学年でC・D道の割合は減少している。 ○学校コーディネーターとの連携による活動が充実していて、地域の魅力を実感する機会を設定できた。公園の活用、消防団の見学、漁協をゲストティーチャーにお招きした授業など、社会に開かれた教育課程の実現に向け、各学年で多岐にわたり、地域教材の活用を推進することができた。6年生の、西川古柳座の指導による八王子市の郷土芸能「車人形」の体験は、他校へはオンラインによる見学が行われていたが、本校では直接のご指導をいただいた。郷土恩方に誇りをもてる活動となっている。 ○校内研究のテーマを読書に据え、年間を通して読書活動が充実するようにした。選書にとらわれず、教師によるブラインドブックコーナーの設置、授業内容に関連する図書の紹介や、授業での授業内容に関する本の活用等、活動の幅を広げて読書活動の推進に取り組めた。	
豊かな心の醸成	①縦割り班活動の活性化による自他尊重の精神の発展 ②（重点）あいさつの推進によるコミュニケーション能力の向上 ③相談・支援体制の充実による多様性社会への理解促進	①縦割りの集会や遊びをはじめとした縦割り班を生かした活動の、およそ月1回の実施での状況 ②あいさつの様子を確認し、状況に応じた推進を年間で実施（実施状況） ③SC（年38日）、巡回心理士（年40時間）を活用し、児童の心の安定を図る（実施状況）
	経過・達成状況	

	<p>○特別活動主任による計画・進行により、縦割り班の取組が児童・教員ともに定着をしている。掲示コーナーに活動の確認に来る児童が増えた。異学年交流を通して他者理解を深める機会になった。</p> <p>○挨拶が課題であることの教職員間の共有が進んだ。打ち合わせの現状確認が児童の指導へつながることもあった。児童会による挨拶運動や挨拶の指導により、その場の効果は表れるが、一過性のものに終わってしまった。習慣化のために、年間を通した意識化した取り組みを継続させていく。</p> <p>○校内委員会で課題や方針を共有し、スクールカウンセラーによるカウンセリングやフィードバックを積極的かつ有効的に活用することができた。また、巡回心理士による授業観察を授業改善の一助とすることができた。今後、コーディネーターと担任間の連携を深め、点から面への支援体制の構築を進めていく。</p>	
健やかな体の育成	<p>①体力テストの結果等を生かした、個に応じた体力の向上</p> <p>②保健教育、食育の意図的・計画的な推進</p> <p>③実状に合わせた安全教育の充実</p>	<p>①体力テストの結果分析の活用と日常運動の通年実施</p> <p>②給食室との連携。日常的な保健・給食指導の充実</p> <p>③様々な想定の下で避難訓練を年間11回実施（避難時間5分以内）</p>
	経過・達成状況	
	<p>○体力テストの結果を生かした指導は学級によりばらつきが生じた。来年度は、全校の取組を企画・運営し、学校目標の一つである「じょうぶな子」の達成を目指していく。運動への興味関心を高めるための、体力テストの記録の校長室前掲示は継続をしている。気に留める児童は多い。</p> <p>○委員会活動でのおはし名人の取組、もったいない大作戦をはじめとした給食室との連携などにより、食育を充実させている。保健室前の廊下での児童向けの保健指導の掲示には全教員が協力をするなど、養護教諭を中心とした保健教育が進められた。</p> <p>○避難訓練では、状況に適した避難について考えることができるよう、適宜、想定を見直して実施した。避難に要する時間は、ほぼ毎回5分を切る事ができた。集中して訓練に取り組む姿勢を育むことができ、着実に避難行動が身に付いている。</p>	
教職員	<p>①授業観察等の意見交換などを通じた、授業の評価と改善</p> <p>②授業力向上のための校内研修やOJTの取り組み</p> <p>③特別支援教育に関するショート研修の積み重ねによる、特別支援教育への理解の向上</p> <p>④「恩方第一小学校いじめ防止基本方針」に則った取り組みの徹底</p> <p>⑤服務規律についての理解促進と遵守</p> <p>⑥ライフ・ワークバランスの確立（集合同議の精選、業務効率化の推奨、職員互助意識の浸透等）</p>	<p>①年3回の自己申告時や日常での授業観察と、管理職と教員間の意見交換</p> <p>②ニーズや課題に合わせた校内研修やOJT研修の実施（実施状況）</p> <p>③校内委員会と特別支援教育に関するショート研修の実施状況と、構築した支援体制や取り組みの確認</p> <p>④いじめ対策委員会の定期開催による全職員の共通理解（実施状況）</p> <p>⑤就業規則の提示と服務事故事例の紹介、体罰防止チェックリストの活用（実施状況）</p> <p>⑥有休取得と日々の在校時間の短縮継続の確認</p>
	経過・達成状況	

	<p>○各学期1回ずつ授業観察を実施した。観察を通じた指導や意見交換を授業改善につながるよう、優れている点や課題を共有した。授業観察の時間は互見授業の機会ともしたが、参加は少なかった。再周知が必要である。</p> <p>○教員相互が担当者となり、それぞれの専門や得意分野等の内容のOJTを実施し、授業者の視野を広げる機会とることができた。主幹教諭による進行管理で進められた。</p> <p>○毎週開催の特別支援教室専門員によるUDLを内容としたミニ研修の積み上げにより、特別支援教育への理解は確実に増している。児童の特性に応じた教材の紹介は、授業力の向上や教員の視野の広がりにもつながっている。</p> <p>○毎週のいじめ対策委員会により、全校体制でいじめの実態把握、早期発見・早期対応の取組を進めた。初期対応が不十分にならないよう、細かな情報も逃さず共有できるよう留意している。保護者との連携も密になるよう取り組み、この情報も教職員間で共有した。今後も、継続をしていく。</p> <p>○おおよそ月2回の服務事故事例の紹介により注意喚起を継続して行い、規範意識を高めている。体罰防止チェックリストは管理職による確認も行っている。</p> <p>○教職員の時間外在校時間削減への意識は定着している。60時間を超える職員がゼロとなった。最大45時間まで、平均30時間をクリアするために、引き続き効率化や業務改善を進めていく。</p>	
保護者地域	<p>①学校便りの内容や発信方法の工夫</p> <p>②学校評価の活用による教育活動の振り返り</p> <p>③学校運営協議会との連動（漢検や環境整備等）</p> <p>④近隣保育園や学童保育所・放課後子ども教室との連携や協力関係の構築</p>	<p>①内容や発信方法についての点検</p> <p>②学校評価の年2回の実施と結果の分析・活用</p> <p>③学校運営協議会委員との学校職員との意見交換の実施</p> <p>④連携事業の取り組み状況についての確認や見直し</p>
	経過・達成状況	
	<p>○学校便りでは、情報量の精選を行い、必要な情報が伝わりやすいにしている。教育目標や教育活動の紹介も進むようにしている。今後も、時期や他のお知らせとの関連などに留意をしていく。</p> <p>○年2回の学校評価保護者アンケートでいただいた評価を真摯に受け止め、職員間でも共有し、改善に努めていく。行事ごとのアンケートも生かしていく。</p> <p>○学校運営協議会と学校職員とで地域巡りを行い、恩方の魅力を共有した。バス停前の土留めの検討を行い、試行錯誤を重ねながら環境美化を進めている。</p> <p>○近隣保育園の避難訓練への参加、授業への参加を行った。また、「架け橋期のカリキュラム」作成も行った。連携が進んだ1年である。今後も、保幼小に学童や放課後子ども教室も加えた連携の取り組みの充実を図っていく。</p>	